

## 第80回市民ふれあいトーク 【学生と考える倉敷のまちづくり】

日時 令和元年5月22日 13:10~14:40

場所 倉敷芸術科学大学

### 要約版

#### 《市長》

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました倉敷市長の伊東香織です。皆さんとは4月の入学式の時、お会いして祝辞を述べさせていただいたと思います。その時にも申し上げましたけれど、この倉敷芸術科学大学は私たち地元の市民、そして自治体の皆が是非この倉敷の地に大学をつくっていただきたい。それも地域の産業や地域の人たちのために、とてもこれから発展的な学校になるという思いを持って、お願いをいたしましてつくっていただきました。本当に私たちは芸科大のことを大変誇りに思っていますし、そして地域の皆さんも芸科大の学生さんがいろんな活動をしてくれるとなれば、喜んで協力をしてれています。入学式の時に言いましたが、本当に皆さんのことを期待していると、最初に申し上げたいと思います。

今日は「倉敷と仕事」という授業の一環ということで「COC」、これは説明を受けていると思いますが、「センター オブ コミュニティ」、つまり、コミュニティの中心的な役割を果たしていこうということ。そのために文科省や地方公共団体、そして地域の皆さんたち、そしてその場として大学を選び、皆で取り組んでいくというのがこのCOCです。COCというと堅い感じになるんですが、今日私がここに参りましたのは、倉敷市の若い皆さんたちが、今どういうことを考えているのか、特に入学されたばかりですので、倉敷市や岡山県内出身の方ももちろんおられると思いますけれど、市外県外からこの学校に来られた方が、倉敷のまちや文化を見てどういうふうにしたのかということもお伺いしたいと思ひまして、今日この授業をお引き受けさせていただきました。何より皆さんがこれから4年間、学んでいくこの大学ですので、地元のこと、これからいろいろ知ってもらいたいなという思いがとてもあります。この大学のところ、またその周辺だけにいて、ずっと勉強だけしているのではもったいないと思いますので、皆さんがこれから学習していく場というのはどういう所なのかというのをお話するのが今日の私の役割かなと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

(地図を示しながら) さて、この赤い点線で囲まれているところが倉敷市です。そして瀬戸大橋が四国との間に架かっていまして、皆さんが今いるこの芸科大がここになります。そしてこちら辺是水島コンビナート地域、倉敷駅がこのあたり、そして新倉敷駅がこのあたり。瀬戸大橋が架かっているところがジーンズのまち児島。この東側に岡山市さんや玉野市さん、北に総社市さん、西に矢掛町さんや浅口市さんがあるということです。

ちなみに皆さんの中で、岡山県外出身の方、どのくらいいらっしゃるでしょうか。(挙手) ありがとうございます、8割くらいですね。その中でこの大学に入学する前に倉敷に来たことがある人、どれくらいいますか。(挙手) 10%くらいかな。ありがとうございました。

さて、今日、実は第80回目なんです。市長に就任しまして大体月に1回くらい、こんな形で地域の皆さんと意見交換をする場を持っていまして、それをいろんな市政の方向に反映させていくと言いますか、参考にさせていただいて、まちづくりをしていきたい。もちろん言っていたことがすぐに全部実現するというのはなかなか難しいものもある

んですが、いろんな皆さんの意見をうかがって、市の市政を進めていく、その一環がこの市民ふれあいトークで、今日、80回目になっています。

確か何年か前にも芸科大さんでさせていただきまして、取組をしているところでございます。さて、皆さんにこの倉敷のまちづくりということで、我々のまちのことを知ってもらいたいわけですが、この倉敷のまちの地名について、どういう地名があるか、皆さんが知っている倉敷の中の地名を言ってもらえますか。

(玉島。)はい出ましたね。玉島。(地図を指しながら)玉島は大体このあたりですね。倉敷の西辺り。他には。(水島。)はい水島。水島は大体このあたり。水島コンビナートがありますね。(茶屋町。)はい茶屋町。茶屋町はこのあたりです。昔からイ草の大変大きな産地ですね。ここから出た磯崎眠亀さんという人が発明したイ草のとても素晴らしい織物というのは、当時、明治の初めには神戸の税関から輸出される日本全体の輸出の品目の中のトップ3くらいをいつもいっていましたね。とても素晴らしいところです。先ほど言っていたいただきました玉島もそうですが、繊維のまちとして、もともと綿花のまちとしても賑わっていました。

他はどうですか。(真備。)はい真備。真備はここです。ご存知のように昨年7月豪雨で、私たちのまち真備は大変大きな浸水被害を受けまして、全国の皆さんからさまざまな支援をいただきました。特にこの芸科大さんでは、倉敷市からお願いしまして、真備の中学生の皆さんの保護者の方の説明会でもこちらの建物を使ったりしたんです。真備の中学校は2つとも浸水をしました。両方の中学校合わせて700人くらいなんですけど、すぐには学校で勉強ができないので、9月の1か月間、授業を別の所でお願いすることにしまして、芸科大さんに真備中学校、そして霞丘小学校に真備東中学校の生徒さんに通ってもらいました。小学生も玉島の小学校と玉島の高校に皆で引っ越したというか、それぞれの家とか仮設住宅から通って来たんですが、大変お世話になって。今は学校を、まだプレハブですが、町内に建てて復興に向けて頑張っているところです。

あと一個くらい、ありますか。(児島。)はい、児島。このあたりですね。この芸科大がある住所は、先生。(先生：連島町西之浦です。)そうですね。連島町西之浦。連なる島、町。西之浦。浦はさんずいの浦です。今言っていた名前のというのが実はこの倉敷のまちと大変大きく関係があります。この地形を見てもらったら分かりますけれど、この緑色の濃いところは、ここ大平山もそうですが、山とか標高が高いところ。今言いました玉島、それからこのあたりは水島、そして児島。そして倉敷あたりは色が薄いところ、茶屋町あたりも色が薄いところ。

何が言いたいと言いますと、瀬戸内の多くの地域がそうなんですけれど、島というのが多い。要は以前は島だった。ところがこの高梁川の水の流れ、高梁川というのは多くの水を運んでくると同時に、大変多くの土砂も運んできます。

それから高梁川の一番上流の方には新見、またその向こうの方にも、たたら製鉄という鉄の材料を取る所があって、土を川に流して中身の鉄の原料を取ることにになりますので、川沿いに多くの土砂が流れてくることになり、そしてそれを活用し、江戸時代から急激に干拓が進みました。瀬戸内海、割と多くの所がそうです。例えば、呉市さん、福山市さんもそうですし、四国の方も、今治市さんとか新居浜市さんとかも多くの所がそうだと思います。それによって元々島だった所が、陸地になってきたというのが私たちのまちの大きな成り立ちです。

もちろん今は陸地で川に橋が架かっていますけど、陸地になった我々のまちの特色というのが結構ありまして、このあたりは川からの水ですので、あまりしょっぱくないんですけど、干拓地のあたりは、元々海だったところがだんだん地面になったので、塩分が多いわけです。そうすると、その時代の産業として江戸時代とか、地面に塩分が多いと、どういう産業ができるかな。ヒントは、赤穂とか明石とかそのあたり。(塩。)そうです。干拓地なので、特に児島のあたりは今も皆さんが食べる食卓の塩、あれのかなりの部分を野崎さんのナイカイ塩業が作ってます。野崎武左衛門さんという方が、大変広い塩田を持っていて、塩を作りました。

さて、塩以外で、普通は土地で何を作りますか。(米。)そうだね。普通は米を作って、年貢米として出すんだけど、干拓地というのは塩分が多い。塩分が多いと、米を作るのに適していないわけです。その代わり作り始めたのが、綿、綿花とそれからさっき茶屋町で出ましたけれど、イ草の産業です。ですので、当時江戸時代後期から明治の初め、そして大正くらいもそうですかね。高梁川の河川敷には、イ草の大変素晴らしい織物がずらっと並べられて干していたというので、この岡山県内というのは、全国の中でも一、二を争うイ草の町でありました。今は作っている所は少なくなっているんだけど。今国内では熊本さんが一番多く作っています。

それと今言いました綿花の産業です。綿花は塩分に強い。そして作った綿花を(日本遺産の北前船のパネルを指しながら)ここに船があります。北前船という単語を聞いたことがある人。(挙手)10%くらい。割と少ないですね。この北前船というのは、当時の日本全体の、北海道から山形とか新潟とか福井とか日本海側をずっと回って、下関のあたりからぐるっと回って瀬戸内海を通過して大阪、上方あたりまで、その当時は日本の物流の大動脈でした。

それがこの玉島の港と児島の港に寄港していたわけです。なぜならば、綿花、綿の最も優良な肥料が、この北前船で運んでくる北海道の魚のニシンの、当時ニシンは油を搾って日常生活に使っていたんですけど、その搾りかすを粉にしたものを、船でずっと運んでくるわけです。他にも鮭とか昆布とか運んできたり、日本海側で取れる大変優良なお米を運んで来て、玉島や児島の港でそのニシンのかすをおろして、そして今度は大阪から帰りの時に、我々が作った綿それから塩を持って帰って、北海道との間だけでやり取りするんじゃないくて、日本海側の多くの所とやり取りをします。なぜならば、塩というのは天候がいいところでしかなかなか取れないので、日本海側で塩がなかなか取りにくいこともあって、大変たくさんの所で売れますし、また特に北国では、さっき昆布とか鮭とか言いましたが、塩鮭とか塩昆布に今度は加工して、それが長期的に物流の大動脈に乗ってくるということになります。

で、我々がつくった綿花、そして綿花から作った様々な着物とか、どてらですね。綿が入ったどてらは、綿がなかなか取れなかったので、特に北国の皆さんに大変重宝されて、つまりこの港というのは大変にぎやかに、生活や産業が発展したということになります。そしてこの高梁川があるわけです。倉敷のまちの中にはいろんな川が流れているわけですけど、その中心的な取引の場所となったのが、今の大原さんの倉敷紡績、これは明治時代とかになりますけど、紡績産業として発展してきて、そして倉敷という名前の由来はたくさんありますけど、漢字で倉敷、「倉」「敷地」で「倉敷」です。つまり倉敷の町の中には、米とか繊維産業の製品とか、ずらっと並べて、今の白壁の町の倉がずっと並んでそこで取

引をしたという、そういう場所だったので、倉敷という名前がついたというふうにも言われています。

さて、そういうところからだんだん新しい時代になるわけですけど、今でもナイカイ塩業さんは塩を作っています。玉野市でも作っています。それから今言った繊維産業のことですけど、綿花が栽培されていたので、元々繊維産業のものづくりがとても盛んでした。児島には由加山という山があります。そして海を渡ったところには、四国の金比羅山がありますけど、両方とも江戸時代の大変優良な観光地でした。由加山では児島で作ったいろんな綿花の製品を、参拝した人がお土産にたくさん買って行って全国に流通したということなどから始まって、繊維のまちづくりというのが非常に盛んになりました。

皆さんもこれまで多分着たことがあると思いますが、学生服、セーラー服、日本の中の学生服、セーラー服の7割ぐらいはこの児島の地で作られています。児島の繊維製品の出荷額というのは日本で一番多くなっています。ちなみに一宮とか岡崎、それから福井とかも多いです。繊維産業というのは連綿とした歴史があって、学生服、セーラー服、その前には足袋も大変多く作っていました。足袋は茶屋町のところが発祥の地となっています。そして皆さんがこれまでの人生で必ず触ったことがある倉敷の繊維製品と言えば、小学校の体育の時にマットの授業があったと思いますが、マットはほぼ100%が倉敷で作られていた、帆布の生地で作っていたのでそれをもとにして、それも倉敷の繊維産業の一つです。

今はジーンズも大変盛んですけど、学生服、セーラー服も大変盛んになっています。今、児島のジーンズ産業というのは、全国・世界に発信しています。それ以外の地域としましては、倉敷、元々物流の大動脈であったことから、大原さんの倉敷紡績、またそのまちづくり、町並みというのが大変残されていて、また、町の皆さんたちが町の姿を残していこうということで、今、伝統的建造物群保存地区として、大体美観地区あたりのところですけど20ヘクタールくらい、大きなまちの中心のところで伝統的な町並みが残っていて、全国、世界から年間400万人近く来ていただいているところです。観光産業にも発展しています。

そして皆さんがいらっしゃる芸科大の山の南側のところは、水島コンビナートが大きく発展しました。この場所というのは、元々は干拓を少々していたところですけど、今から大体60〜70年くらい前に大変大きく干拓、つまり農業県から工業県としての立場をつくっていきこうという、当時の岡山県知事の三木行治さんという大変素晴らしい知事がいらっしゃいまして、その方がこの区画については埋め立てをしているんな産業を誘致しようということで、例えばJFE、また三菱自動車そして石油化学メーカーをはじめとして多くのところが今進出しています。というような感じで、玉島も繊維産業が元々盛んであり、今も繊維産業からまちの形を、伝統的な地区も残しつつ、また当時からの文化も残しつつ、まちの発展に取り組んでいるところです。

今、まちの紹介をしたんですけど、今から皆さんが質問をしてくれたり、倉敷のことについてどう思っているかということについて、例えば自分が住んでいるまちはこうなんだけれど、倉敷はなぜこうなのでしょうとか、若しくは自分が住んでいるまちはこうなんだけど、倉敷はこういうところがいいなと思うとか、そういうことを今日は是非知りたいと思いますので、よろしくお願いします。

### 《参加者 A さん》

生命医科学科の A です。倉敷市の将来構想やビジョンについて教えてください。

### 《市長》

大変大きな質問ですね。A 君は出身はどこですか。（A さん：山口県です。）安倍総理大臣のところですね。倉敷のまちというのは倉敷・児島・玉島の 3 つの市が昭和 42 年に合併して今の倉敷市が出来ました。もちろんその間に庄や茶屋町、真備、船穂も合併をしてくれました。その後、今のような市の形に発展していくんですけど、倉敷市全体で人口は今 48 万人くらいいます。一番大きなのは倉敷地区で 20 万人くらい、水島が 10 万人くらい、児島と玉島が約 7 万人ずつ、庄と茶屋町がそれぞれ約 1.5 万人ずつ、真備が約 2 万人くらいなんです。その中で合併をしたまちというのは、ともすると一番大きなところの特色が外に発信をされて、市の特色としては美観地区ですと言われそうだなと思うんですけど、私の考え、また、倉敷市の考えとしては、せっかくそれぞれの地区にいい歴史がありますので、ビジョンとしてはそれぞれの地区の特色を生かして、それを全国や世界に発信しながら倉敷市全体として発展を図っていくというのが大きな方向性です。

児島のデニム産業、ジーンズストリートというのは 10 年くらい前から児島の商店街のところにジーンズ産業の皆さんが集積してくれまして、今や 40 店舗近くが児島に集まっています。児島は今世界から注目されていまして、多くの方がこの児島に来て、デニムの買い付けをしてくれるようになったので、私の考えとしては一つひとつの地区の特色を生かして、それを発信していくということが大きなことであると思っています。

それとなんといっても住みやすく、これからは人口減少社会や高齢社会ということもありますが、倉敷市としては子育て支援をかなりやっています。また、倉敷中央病院や川崎医科大学附属病院など全国的にも有名な病院がありますので、健康長寿社会にも力を入れています。

また、倉敷市としての人口は今はほぼ横ばいですが、この人口減少社会の中で、何とか人口が減らないで、少しくらいは増えながら、でも倉敷だけが増えるのではなくて、周辺の浅口、矢掛、総社、高梁川上流の高梁、新見など、高梁川の流域でみんな一緒にいろんな取組をしていますので、まわりの市と一緒に地帯が発展していけるような、そういうまちにしたいと思って頑張っているところです。大きく言うとそんな感じです。

### 《参加者 B さん》

生命科学科の B です。倉敷市のご当地グルメとかお祭りとかはありますか。

### 《市長》

出身はちなみにどちらですか。（B さん：静岡県です。）徳川様のところですね。うちは天領です。お祭りとしては、この近くで言えば、連島では千歳楽というお祭りがあります。この千歳楽っていうのは、地域のお祭りなんだけれど、すごい分厚い大きな座布団のようなものを重ねて神輿で担ぐというお祭りです。そういうのが市内で多くて、この連島地区、玉島地区でもそれが多いです。それから玉島の戸島神社というところがあるんですけど、ここには約 700 年前から行われていると言われていて 10 月の最終週にある乙島祭りという大変大きな祭りがあります。一部だんじりを担いだりするんですけど、それと鴻八幡

宮という児島の大きなところ、こちらは大変急な坂をだんじりを引っ張って町内の人たちが何百人も、大体20町内ぐらい出て、ずっとお宮に宮入りをして、また宮下りをするという町内あげての大きなお祭りがあったり、また、この倉敷のまちでは7月になりますと「倉敷天領夏祭り」というのがあって、倉敷駅前大きな通りを皆さん踊りながら進んだり、水島にも同じような夏のお祭りがあります。各地区にお祭りがありますがどんなお祭りが行ってみたいですか。(美観地区のお祭り。)わかりました。是非7月の「天領夏祭り」来てみてください。倉敷駅の前から大通りの両側に皆さんがいらっしゃって、そこに倉敷市内のいろんな団体が踊りを披露する「OH! 代官ばやし」というのが結構有名で、踊って競演するというのがあります。

グルメはいろいろありますが、岡山県全体としては「まつり寿司」というのが有名です。それから果物が有名です。特に玉島の桃、これは全国的にも素晴らしいと思います。桃は関東では赤い桃が多いと思いますが、玉島の桃は白いんです。甘さが抜群です。それから真備のあたりもピオーネのぶどう、それから船穂のマスカット・オブ・アレキサンドリアというのは、ハウスのマスカット・オブ・アレキサンドリアの生産では日本で一番を誇っているなど、果物の生産がとても盛んですので、夏になったら皆さん是非果物にトライしてみてください。グルメっていう事じゃないかもしれないけど。

#### 《参加者Cさん》

生命医科学科のCです。倉敷市、特に美観地区はどこを見てもごみが無くきれいにされていますが、倉敷市ならではの環境保全の方法はありますか。

#### 《市長》

ありがとうございます。倉敷市では特に各地区の、だいたい小学校区の単位で、環境に関する委員の人たちがいらっしゃって、地区の中でのごみの分別とか、ごみ拾いのこととか、犬の散歩のときにちゃんとフンを持ち帰りましょうとか、いろんなことをやってくれる環境衛生協議会という組織がありまして、それぞれの地区でとても頑張っていてやってくれています。

そして、市の中では、とても自然を大切にするというのがありまして、一つには、毎年高梁川の上流から下流までの自治体でみんなで一斉に高梁川のまわりのところでごみを拾いましょうとか、リフレッシュ瀬戸内と言いまして、瀬戸内の地域の沿岸で、倉敷市では沙美海水浴場の海開き前の6月の最終日曜日にみんなでごみを回収したいということで、自然に面しているところが多いので、みんなでごみを拾う活動というのは多くしています。それと、家庭でのごみの分別にも力を入れているというところはあります。

#### 《参加者Dさん》

生命科学科のDです。倉敷市は環境保全以外にどんなボランティア活動をされていますか。

#### 《市長》

いろいろあるんですけど、例えば今、地域の組織としていろんなボランティア活動っていうのが一つ、環境衛生協議会の皆さんですとか、愛育委員さんという制度があります。

地域の皆さんの健康のためにいろんな活動をしてくれたりするものでありますとか、栄養改善協議会、交通安全のボランティア活動であるとか、それぞれしっかりした組織で、地区ごとのボランティア活動っていうのがあります。

それと、学生の皆さんがしていただけるボランティア活動としては、それこそ芸科大さんでありますと、危機管理学部ができられましてから消防関係の活動、学生消防団っていう素晴らしいボランティア活動をしてもらっていたり、この前の災害の時にも、芸科大の学生の皆さんたちが中学生の勉強を見てくれたりしまして、中学生たちはとても喜んで、大学に行く時には芸科大に行きたいという子がいたりというの也有ります。それから、医療関係の方に進まれる方もいらっしゃるんじゃないかと思ひますけれど、例えば地域の福祉施設などで、ボランティア活動なのか研修・実習なのかということなどもあるかと思ひますがそういったもの、若しくは子どもたちと触れ合ったりするということなど、いろんなカテゴリーがあります。

倉敷市にはボランティアセンターというのが、社会福祉協議会の中にありまして、昨年からかなり災害のことに特化してしまっていたんですけど、もともとは高齢福祉のこと、子どもさんの福祉のことなど自分が選んでやりたいボランティア活動に取り組む仕組みがあります。それから、芸科大さんも日頃から積極的にいろんなボランティア活動に取り組んでいただいております。自分が興味があることがあったら、芸科大の地域連携の担当の方がいらっしゃると思ひますので、そういうところを通じて、地域に入ってそういう活動をしてみたいということを言っただけであればできると思ひますので、いろんな方向が開けていると思ひます。

入学式の時にも言っただけですけど、皆さんがこれから大学で勉強をするわけですけど、(倉敷市には) いろんなことができるフィールドがあります。産業も重化学工業もあるし、すぐに仕事をするわけではないですけど、いろんなことを経験してみる、若しくは実験をしてみたり、いろんな話を聞いてみたりすることもできるでしょう。一方で、農業のことに興味があればそれでもできるでしょうし、いろんな素晴らしい福祉施設や子どもさんの施設もありますので、そういうところで触れ合ってみて、将来の自分の方向性を決めていきたいということもあると思ひし、それから地域の産業を学んでみて面白そうだなと、将来そこからビジネスを始めてみたいと思ひかもしれないし、自分が興味のある部分のいろんなことを試してみることができるところが、私は倉敷市のとってもいいところだと思ひています。文化の伝統としては、大原美術館をはじめとする美観地区のところもありますし、それ以外のところも、さっき言っただけのように長い歴史を持つ文化の伝統ですので、皆さんに是非そういうところを試してみてもらいたいと思ひます。

#### 《参加者 E さん》

生命科学科の E です。倉敷市で実施している子育てや教育についての取組を具体的に教えていただきたいと思ひます。

#### 《市長》

子育てや教育に関する取組ですね。例えば、子育てに関する取組では、今全国的に有名になっているのが、保育園の待機児童の問題で、新聞とかによく出ていますよね。今共働きの方が多くて、保育園に子どもさんを預けて安心して働きたいという方がたくさんおら

れます。それから子どもが小学校に上がったら、お父さんお母さんが仕事から帰って来る夕方6時か7時ぐらいまで子どもを預かってもらえるところがないかなということで、学校にある児童クラブっていうのに入りたい人が多いです。ですので、倉敷市はまだ待機児童はいるんですけど、保育園の数や定員を非常に増やすように努力をしたり、小学校に上がってからも特に低学年の間は親御さんも心配されますので、希望する方は児童クラブっていうのに、親御さんが仕事が終わるまでの間、だいたい7時ぐらいまでですけど、そこに入って宿題をしたりおやつを食べたりっていうのができるようになっていうのも一つしています。

それから教育の面では、最初に言ったような話なんですけれど、倉敷市は地域のことに皆さんが関心を持って誇りを持ってもらうのが大事だと思っています。何故なら、皆さんがこれから全国や世界の中で海外の方と話をしたりする時に、あなたの大学はどういうところにあるんですか？実家、出身地っていうのはどういう地域のどんな歴史を持っていて、どういうところがすごいんですか？と聞かれることが多いわけです。ですので、倉敷の子どもたちが大きくなる時に、自分たちの地域のことを、こんなにすごい地域だっていうのをしっかり言えるようになってもらいたいと思っていまして、教育委員会と連携して、小学校の3年生と4年生の時に、教科書以外の副読本で「みんなのまちくらしき」という本を作っています。その中にさっき言いました大原孫三郎さんのこととか、野崎武左衛門さん、磯崎眠亀さんのこととか、真備だったら吉備真備さんという遣唐使として唐に渡った偉い人がいるんですけど、地域の歴史や偉人のことを勉強してもらって自分のまちに愛着を持ってもらう、そしてそれを通じてまちの歴史を知り、それを誇りに思って、これからの自分の仕事や生活につながればいいなっていうことを一生懸命やっています。そういうところに今力を入れてやっています。

### 《参加者Fさん》

生命科学科のFです。倉敷市は地元の若者の県外流出について何か対策はされていますか。例えばマスキングテープが倉敷市発祥じゃないですか。そういうのを使ってアート展をやったりして、倉敷市の魅力を伝えたりという対策があったら教えてください。

### 《市長》

ありがとうございます。出身はどこですか？（Fさん：広島県の福山市です。）福山市、割と近いですね。マスキングテープは今や3,000種類以上ぐらいあって、全国の皆さんからもとても評価をいただいています。カモ井加工紙っていうところがやっているんですけど、会社としても市としても、いろんなイベントをする時にマスキングテープを使ったりしています。平成28年に倉敷市が主催場所として行いましたG7教育大臣会合。伊勢志摩サミットの時に教育大臣会合をこの倉敷でやったんですけど、その時に大原美術館さんがカモ井加工紙のマスキングテープとコラボしまして、大原美術館の入口の柱とかをマスキングテープで全部飾って、大原美術館らしくない今のモダンな感じにしたということなども発信をしたりしています。

東京に行く時も、マスキングテープは全国の方が知っているので持って行ったりするんですけど、マスキングテープっていうのは、今はいろんな種類があってきれいなかわいいテープとして知られているんですけど、もともとはそういう用途じゃなくて、昔は皆さん

のおばあちゃんの家の台所とかに、多分みんな見たことないと思うんだけど、茶色い粘着性のある紙が、こうくるくると巻いてそこに飛んで来たハエがピタッと貼りつくハエ取り紙だったんです。それで有名になって、そこから工業用の方に進んで、そこからもう一段階、工業用だけじゃなくてデザイン性のあるのを作ったという非常に素晴らしい歴史を持っているので、そういう産業の発展の仕方っていうのも一緒に合わせて発信しています。

今言ってくれたように倉敷も就職で他の地区に行かれる方もいらっしゃるし、また他の地区から倉敷に来てくれる人も結構います。移住定住のことで全国各地に、特に今、東京での移住定住の説明会に積極的に参加をしたりして、また倉敷の玉島にお試し住宅というのを持っています、そこで住んで仕事を探して倉敷に移住しようっていう人のための場所も設けていて、これまでに倉敷へ100人近く、その住宅を利用した人だけでも移って来ているので、そういうものをだんだん広めてもっとやっていければと思っています。もちろん、各地区の特色のある産業があるので、その産業にフィールドワークで来てもらったり、それからインターンシップで東京や他の地域の大学生さんにも来てもらって、もちろん芸科大にも来てもらいたいんですけど、そういうのも進めていきたいと思っています。

#### 《参加者 G さん》

生命科学科のGと言います。倉敷に来て1か月ぐらいになります。あちこち回ったんですけど遊園地とかが少ないと思ひまして、遊園地とかを増やしてみたらどうなんだろうかなと思うんですけど。

#### 《市長》

遊園地といえば、昔倉敷駅の北に倉敷チボリ公園というのがあって、第三セクターっていう半分公共が入っているような運営でやっていたんですが、平成20年に閉園したということがありました。大規模なのは今はないんですけど、鷺羽山ハイランドというのがありまして、これもけっこう有名なんですけど、大きな遊園地としてはこのぐらいですかね。近くにレオマワールドはあるんだけど。どっちかという、遊園地よりも自然を楽しむっていうことに力を入れてますかね。真備にも美しい森とか自然と触れ合うところとか、児島にも由加の森とかそれから各地に、例えば水島緑地福田公園、これはスポーツ関係の施設なんですけど、かなり大きなスポーツの施設もいろんなところにあります。もともと3つの大きな市が合併したというのもありまして、各地区に1つは大きなものがあります。野球の公式戦をやっているマスカットスタジアムっていうのもあって、ここには毎年、今は楽天の公式戦とキャンプに来てもらっているんですけど、遊園地っていう感じはちょっとなくて申し訳ないんですけど、スポーツができる環境を整えているというのがあります。遊園地をつくるのはちょっと難しいかと思うんですけど、いろんなところに自然にも触れ合いながらっていうのを大事にしていきたいと思っています。

#### 《参加者 H さん》

生命医科学科のHです。夜、ちょっと暗い道とかが多くて、溝とか用水路とか畑とかそういうふうなところで、足を踏み外したりだとか危ないことがあったりするので、夜とか暗い道に対してやったほうが良いこと、対策とかがあれば教えていただきたいと思っています。

## 《市長》

はい、分かりました。出身は市内じゃないよね。どこの出身ですか？（Hさん：出身は兵庫です。）兵庫ですね。分かりました。その理由として、倉敷には用水路がとても多いというのがあると思うんです。市も用水路とかのいろんな危ないところで住民の皆さんから言っていただくところを、改修したりサインを付けたりしてるんですけど、それがとても多いんです。なぜかと言いますと、実は全国の中でも岡山市と倉敷市は用水路の総距離数というのがものすごく多くて、農水省が計算しているものなんですけど、全国の都市の中にある用水路の総距離数が40万kmと言われているんですが、そのうちで岡山市さんにあるのが4千km、つまり全国のすべての用水路の百分の一が岡山市にあるんです。それで、倉敷市の中にある用水路の距離が2千kmくらいあるんですね。ちなみに倉敷市の全体の面積というのが350㎢くらいなので、だいたい20km×20kmくらいなただけけれど、そうするとこの中に用水路がありとあらゆるところに走っているというのが現状なんです。

最初にまちの興りの歴史を言ったのですけれど、特にこの岡山平野、そしてそこからつながっているこのあたりの地域というのが、干拓がとても進んだということもあって、でも水源はこの川しかない、去年の豪雨災害は別ですけど、もともと雨が少ないというのもあって水を遠くまで持っていけないといけないということがあるんです。ですので、縦横無尽に川が走っていて、あれは一般の川ではなくて農業用の用水路であることがほとんどなんです。それと、下水が流れているわけではないんですけど、下水の施設に行くための処理しなければならぬ雨の水というのもその用水を流れているということもあって、そういう面でもこの用水路というのがものすごく多いんです。

特に危険な場所については、地域の皆さんの声や国からの基準もあって、ガードレール等をしているんですけど、なかなかそれが全部進むというわけでもないし、また、農業用に使わないといけないということもあります。

ですので、まず初めて来た人、それから夜には、自転車で急に行かない方がいいし、ちゃんとライトをつけて、かつ、お昼に慣れてから用水路が多い地域については走った方がいいと思います。地域の人はずっと慣れているから普通なんですけど、外から来た学生さんや通勤の人などは、用水路に慣れていないですし、また、危ないところもありますし、市としても危ないところについては改修も段々としているんですけど、いっぺんにできるわけでもないの、自分なりにライトをつけたり、昼から慣れた道を走るようにするというのがとても大事ですので、まずは自分で防衛しながらというのをお願いしたいと思いますが、そういう成り立ちもあるということでの説明とさせていただきます。

## 《参加者 I さん》

生命医科学科の I です。月に1回ほどこのような市民ふれあいトークが行われて、地域の人や学生と意見交換をしているとのことでしたが、そこで出てきた意見で何か実現したものや今現在実現したいなと思っていることは何かありますか。

## 《市長》

実現したのですが。さっき倉敷チボリ公園の話が出てきたので、倉敷チボリ公園に来たことある方はいますか？（挙手）約35%くらいですか。ありがとうございます。割と

いらっしやいますね。

倉敷チボリ公園が閉園をすることになったときに、今後、この場所をどうしてもらいたいとみんなが思っているかを、こういう市民の皆さんの説明会というか、市民ふれあいトークのような形で大きいのをしました。ここはさっき言ってくれた遊園地のようなものだったんだけど、事業者の皆さんの都合で閉鎖しなければならない。でも商業施設や遊園地を市が運営はできないので、その後どうすればいいかについて皆さんの意見を聞いたんですけど、その時にみんなが言ったのは、この倉敷の駅の周りには多くの木造の昔からの古い住宅があるので、火事とか災害になったときに逃げる場所がない。それから憩いの場所がないので大きな公園を作ってもらいたいという意見が多く出ました。それで、この駅の北の大変大きな10数ヘクタールというところを、市が地権者の方をお願いしまして、「一番真ん中の駅前が一番いいところの土地を市の公園として売ってください。」と言ったんです。それは、一つには地域の皆さんの安全のため、それから、この倉敷のまちを訪れる皆さんが倉敷のまちというのは駅前に大きな公園とか、真ん中に流れている川はさっきも言ったけど農業用の用水路なんだけど、夏になったら蛍とかも出る、そういう所もあるんです。それでいて、両側には全国からも人が来てもらえるような商業施設、三井アウトレットさんとアリオさんがあるんですけど、そういうところにも来てもらいたいというような話を、皆さんの意見を聞いて、でも防災用の拠点にもなるところを作ったというのが一つあります。

それから、いろんなことがあるんだけど、例えば倉敷の美観地区の皆さんであれば、町家古民家の再生のことについて、ある一時期美観地区で、10年前くらいに観光客の方がけっこう減った時期があったんですけど、その時にまちをどうしたいかというので、もっと町家古民家を活用していこうというところを皆さんが言ってきて、それ以来「倉敷市まちづくり基金」と言いまして、町家古民家を活用するための改修をして、そこで起業してくれる人たちに補助金を出して、人が来てくれるような施設を作ったりということなどをしています。

いろんなスポーツ施設、例えば今、福田公園という大きな公園を改修しています。以前は大きな陸上競技場があったんですけど、なかなか使う機会が少なかったのので、住民の皆さんから陸上競技場だけでなく、サッカーとかゲートボールとかグラウンドゴルフとかができるような多目的広場にしてもらいたいという声が出たりして、そういうふうに改修したりとか、大きな方向性を決めるときには、このふれあいトークなどで意見を聞くことが多いです。

さて、時間がかかなりオーバーしてしまいましたので以上で終わりとさせていただきますが、ちょっと皆さんにお願いがありまして、皆さんの手元にあるさっき市役所が配ったこの紙の裏に倉敷市民憲章というのが書いてあります。

倉敷に住民票を移している人も移していない人もいるかもしれないけど、皆さんも倉敷市民の一人なので、これを一緒に読んでもらってもいいですか。

倉敷市ではいろんな会議をするときに一番最初にこれをみんなで読んで、倉敷っていうのはこういうまちをつくりたいというのを一緒に言いますので。私が最初のあたりの文を読みますので、「一」と言ったら一緒に読んでもらいたいと思います。

《倉敷市民憲章を全員で唱和》

ありがとうございました。この市民憲章は50年以上前にこの倉敷のまちの人たちが将

来のまちの姿として作ってきてくれたもので、これを目指して今も同じような思いを持って取り組んでいます。皆さんと一緒に唱和してもらえてとてもうれしく思っています。

それでは皆さん，4年間の学生生活，勉強も大変だと思います。そして，地域との交流や，また自分のやりたいことを見つけて，また，倉敷のまちにもいろんなところに興味を持ってもらえればと思います。どうもありがとうございました。

**《終》**